

若者に着物の魅力発信

公立大と谷義産業 共同でウエブサイト制作

若者に、日本の民族衣装である着物の魅力



を伝えようと、福知山公立大学（川添信介学

長）＝福知山市西小谷ケ丘Ⅱと「きもの処たにぎ福知山店」を運営する谷義産業（谷原陽一郎社長）＝本店・与謝野町Ⅱが、共同研究を始めた。学生たちが若者向けの新たなウエブサイトを制作し、情報発信する。

たにぎは、振り袖や訪問着、留め袖、帯、喪服などを取り扱う老舗着物店。着用機会の減少、着付けの難しさ、価格の高さなどから、若者の着物離れが業界

山田副社長（左）から小紋に使う帯の説明を受ける学生たち

の課題となっている。ア会議を開いている。か、谷義産業が公立大に相談し、若者の感性を生かしたウエブサイトの構築に関する共同研究が9月から始まった。

研究は、情報学部の崔童殿准教授と山本吉伸教授を中心に進め、両研究室のゼミ生7人が役割分担をして、ウエブサイトの制作、そのために必要な撮影などをしている。

これまでに、学生たちは同店を訪れ、山田聡志副社長らから、着物の種類など基礎的な知識を教わったほか、実際に着物を着て宝塚歌劇を観劇する同社の企画などに参加。ウエブサイトで使用する映像も撮影した。

現在は、ウエブサイトに掲載するコンテンツを構想中で、アイ

「しみです」と期待を込めて訪れる人生の最期での看取りについて前もって考 医師4人が

海洋プラごみを アクセサリーに

府と佛大が21、22日 産業フェアで教室

放置されたごみが川から海に流れ出たもので、海洋環境汚染の原因となっている。世界的に問題視されている。特にプラスチックごみが大半を占めており、府の海洋ごみも同様の傾向がある。

府民の関心を高めたいと、府と佛大が共同で、海洋プラスチックごみを再利用してアクセサリーを作る無料ワークショップを出展する。事前申し込みは不要、参加希望者は直接会場へ。

京都府中丹西・東西保健所と佛教大学＝京都市＝は、21、22両日に福知山市猪崎の三段池公園総合体育館メインアリーナである福知山産業フェアの展示即売ゾーンに、海洋プラスチックごみを再利用してアクセサリーを作る無料ワークショップを出展する。事前申し込みは不要、参加希望者は直接会場へ。

海洋ごみは、ポイ捨てやペンタントトツ

